望ましい人間関係を形成し、自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒の育成 ~ 発達の段階に応じた当番活動・係活動の指導と自尊感情を高める指導の工夫を通して~

目 次

I		研究	この概	安	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	1
	1	矽	f究主	題	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	1
	2	È	題設	定の	理	由•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	1
	3	矽	F 究目	的•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	1
	4	矽	F究仮	説・	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	1
	5	矽	f究の	全体	構	想•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	2
	6	矽	F究経	過•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	3
Π		研究	この実	際•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 -	3
	1	西	都市	の実	態		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 -	3
		(1)	児童	生徒	の	実態	訁調	査	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	3
		(2)	西都	市の) — <u> </u>	貫耈	女育	に	つ	Į,	て	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	4
	2		ff究の																													4 —	5
		(1)	研究	主題	ikz.	つし	って	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	5
			副題																													4 —	5
	3	È	題に	迫る	手.	立て	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	4 —	6
		(1)	小学																													4 —	6
		(2)	自分																													4 —	9
			役割																													4 - 1	1
	4	授	業業実																													4 - 1	2
		(1)	検証																													4 - 1	
		(2)	検証																													4 - 1	
		(3)	研究																													4 - 1	
		(4)	研究																													4 - 1	
		(5)	研究																					_								4 - 1	
			主題																													4 - 1	
																																4 - 1	
Ш																																4 - 2	
	1																															4 - 2	
	2																															4 - 2	
		<	宏 君	ママ			•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4 - 2	: 0

研究実践学校 西都市立妻中学校 研 究 員 後 藤 佳 也

Ι 研究の概要

1 研究主題

望ましい人間関係を形成し、自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒の育成 ~ 発達の段階に応じた当番活動・係活動の指導と自尊感情を高める指導の工夫を通して ~

2 主題設定の理由

近年、都市化、少子高齢化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において、望ましい人間関係を築くなどの社会性を身に付ける機会が少なくなってきている。このような中、義務教育9年間を通して、児童生徒自らが豊かな学校生活を築きながら、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成が求められている。そのためには、学校生活の基礎となる学級内の組織づくりや仕事の分担処理の充実を通して、集団の一員としての自覚や責任感をもたせたり、自尊感情を高めたりするなど、指導の工夫が大切ではないかと考える。また、これまで小学校と中学校それぞれで行われてきた当番活動・係活動に関する指導を、一貫教育の視点で見直す必要があるのではないかと考える。さらに、小学校6年生から中学校1年生にかけては、学級内の組織づくりという視点で、小学校と中学校の接続を視野に入れた教育活動の充実を図る必要がある。

西都市においては、ふるさと学習「さいと学」やキャリア教育の推進を図りながら、「確かな学力を身に付け、地域に誇りと自信をもった子どもの育成」を目指して一貫教育に取り組んでいる。昨年度、一貫教育推進委員会の小中作業部会において、「小中一貫教育リーフレット」を作成した。これは、「基本的な生活習慣を身に付けること」「進んで働くことができること」「家庭学習に積極的に取り組むことができること」など、義務教育9年間で目指す児童生徒の具体的な取組の内容を項目ごとに一覧にして示したものである。このリーフレットの項目を基に、西都市の全小中学校の児童生徒を対象として実施した意識調査の結果から、「家の手伝い」や「整理整頓」などに対する意識が低いことが分かり、本校においても同じような傾向が見られた。このことは、進んで仕事をしたり、自分の役割に責任をもって取り組んだりするなど、児童生徒の集団の一員としての自覚と責任感に課題があることを示している。

そこで、本研究では、当番活動・係活動の在り方に焦点をあて、小学校と中学校の円滑な接続を視野に入れた指導の在り方を考えていくことにする。その際、自尊感情や役割意識など、発達の段階の違いを明らかにしながら、自分のよさや互いのよさを認め合ったり、役割の大切さに気付かせたりしながら、学級内の組織づくりにおける指導の工夫を行っていきたい。

このような取組が、望ましい人間関係を形成し、自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒の育成につながり、西都市における一貫教育の目標の具現化を図ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究目的

望ましい人間関係を形成し、自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒の育成を目指し、 小学校と中学校における学級内の組織づくりに関する効果的な指導の在り方を究明する。

4 研究仮説

小学校と中学校の違いを生かして、自分のよさや互いのよさを認め合ったり、役割の大切さに気付かせたりする活動を取り入れた、学級内の組織づくりにおける指導の工夫を行えば、自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒を育成できるであろう。

5 研究の全体構想

西都市一貫教育の目標

確かな学力を身に付け、地域に誇りと自信をもった子どもの育成

妻中学校の学校教育目標

豊かな心をもち、文武両道に励む生徒の育成

研究主題

望ましい人間関係を形成し、自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒の育成 ~ 発達の段階に応じた当番活動・係活動の指導と自尊感情を高める指導の工夫を通して~

目指す児童生徒像

自分が周りの人のために役立っていることに気付き、互いの考え方や行動のよさを肯定的 に認め、活動することができる児童生徒

研究仮説

小学校と中学校の違いを生かして、自分のよさや互いのよさを認め合ったり、役割の大切 さに気付かせたりする活動を取り入れた、学級内の組織づくりにおける指導の工夫を行えば、 自分の役割に責任をもって取り組む児童生徒を育成できるであろう。

研究内容

- 1 小学校と中学校の違いを 組織づくりに生かす工夫
- (1) 発達の段階に応じた児童生徒の特徴
- (2) 発達の段階に応じた当番活動・係活動の違い
- (3) 発達の段階に応じた当番活動・係活動における指導のめやす

- 2 自分のよさや互いのよさを 認め合う組織づくりの工夫
- (1) 自尊感情を高めるための視点
- (2) 自分のよさや互いのよさを認め 合う活動の工夫
- 3 役割の大切さに気付かせる 組織づくりの工夫
- (1) 役割の大切さに気付かせる工夫
- (2) 自分のよさや経験などを生かし て役割を決定する工夫

当番活動・係活動における系統表の作成

授業実践・意識調査による検証

6 研究経過

月	研究内容	備考
4	研究主題、副題の決定、研究計画の立案	
5	理論研究、研究概要の決定、実態調査(西都市の児童生徒)の実施と分析	
6	意識調査①(本校の生徒)の実施と分析、検証授業①の準備と実施	妻中学校
7	理論研究・検証授業①における分析と考察	
8	中間発表①の資料作成、中間発表会①の実施	
9	理論研究	
10	検証授業②の準備と実施	妻中学校
11	中間発表②の資料作成、中間発表会②の実施	
12	意識調査②(本校の生徒)の実施・分析、仮説と実践の検証	
1	研究報告書の作成	
2	研究報告書の作成、研究発表の準備	
3	研究発表	

Ⅱ 研究の実際

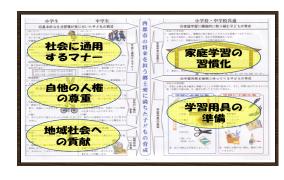
1 西都市の実態

(1) 児童生徒の実態調査

本研究に先立ち、昨年度実施された、西都市の児童生徒の実態を把握するための意識調査を分析した。調査の対象は、西都市の全小中学校(小学校 9 校…1,633 名、中学校 6 校…915 名)である。【図 1】に示してある「小中一貫教育リーフレット」をもとに項目を設定し、質問紙法により行った。調査集計・分析方法については、各項目に対して「A:できている」「B:おおむねできている」「C:あまりできていない」「D:できていない」の 4 段階を設定して

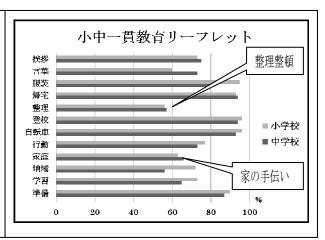
回答を集計した。また、Aの回答数とBの回答数を合計したものを(以下A+Bと表す)肯定的な回答として、「 $A+B \ge 70$ 」を「ほぼ達成」、「A+B < 70」を「課題解決に向けての取組が必要」という評価基準とした。

その結果、【図2】に示してあるように「整理整頓」と「家の手伝い」に対する意識が、小中学校とも低いことが明らかになった。

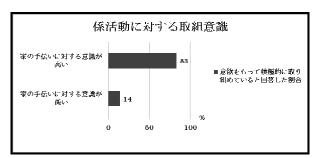


【図1 小中一貫教育リーフレット】

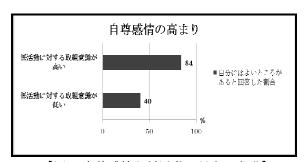
【西都市全小中	□学校の結果】	達成率		
共通項目	内 容	小	中	
	・あいさつ	73	75	
	・言葉遣い	60	73	
社会に通用するマナー	・服装	95	81	
	・帰宅時刻	93	94	
	• 整理整頓	56	57	
	・登校	96	94	
自他の人権の尊重	・自転車の乗り方	96	93	
	・行動	77	73	
地域社会への貢献	・家庭 (手伝い)	63	66	
地域任会への貝紙	・地域(奉仕活動)	72	56	
家庭学習の習慣化	・家庭の学習習慣	73	65	
学習用具の準備	学校の学習習慣	90	87	



【図2 西都市全小中学校における意識調査の結果】



【図3 家の手伝いと係活動に対する取組意識】



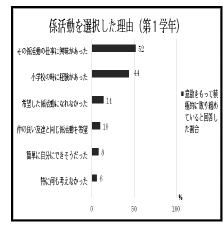
【図4 自尊感情と係活動に対する意識】

これを基に、本校の1年生(185名)を対象に意識調査を行った。その結果、「家の手伝いに対する意識が高い」生徒は、係活動に「意欲をもって積極的に取り組めている」と回答した割合が【図3】に示してあるように83%と高かった。また、【図4】から、「係活動に対する取組意識が高い」生徒は、「自分にはよいところがある」と回答した割合が84%で、自尊感情が高い傾向にあることが分かった。

【図5】は、生徒が「係活動を選択した理由」についての調査をした結果である。このうち、選択した係活動について「意欲をもって積極的に取り組めている」と回答した割合が高かったのは、「その係活動の仕事に興味があった」の52%「小学校のとき経験があった」の44%であった。

このことから、仕事に興味をもたせる工夫をしたり、小学校の経験を生かしたりすることにより、係活動に対する取組 意識を高めることにつながるのではないかと考えた。

そこで、自尊感情の高まりと係活動の決定方法が、取組意識と関係があるのではないかととらえ、研究を進めることにした。



【図5係活動を選択した理由】

(2) 西都市の一貫教育について

西都市では、一貫教育として取り組んでいる教科に「さいと学」がある。これは、以下の二つの目標を柱としている。

「さいと学」の目標

- ① 西都市の自然・環境・歴史・伝統、産業・生活等について、系統性・一貫性をもって学ぶ。
- ② 西都市への理解を深め、西都市と自分に対する自信と誇りを育むとともに、西都市の未来 と自分の生き方を結び付け、生涯にわたってふるさとを愛する心と態度を育てる。

☆ ふるさと教育の推進 ☆ 教育の質の向上 ☆ キャリア教育の推進

「さいと学」における具体的な取組は、「ふるさと教育の推進」「教育の質の向上」「キャリア教育の推進」の三つである。西都市の児童生徒の実態から見える課題解決に向けて、勤労観や職業観を育む必要があり、「さいと学」においては、「キャリア教育の推進」をさらに充実させる必要がある。そのためには、特別活動における当番活動・係活動の発達の段階に応じた系統的な指導を行うことが必要であると考えた。

2 研究の基本的な考え方

(1) 研究主題について

学級活動の目標は、学習指導要領第5章の第2の[学級活動]の1「目標」で、次のように示している。

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

「望ましい人間関係」とは、豊かで充実した学級生活づくりのために生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれの役割と責任を果たし、互いに尊重し、よさを認め発揮し合えるような人間関係としている。

そこで、本研究においては、研究主題を「望ましい人間関係を形成し、自分の役割に責任を もって取り組む児童生徒の育成」と設定し、次のように定義した。

ア 「望ましい人間関係」とは

○ 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にしてい こうとすること。

イ 「自分の役割に責任をもって取り組む」とは

- 自分が周りの人のために役に立っていることに気付くこと。
- 様々な活動で、互いの考え方や行動のよさを肯定的に認め活動すること。

(2) 副題について

学習指導要領第5章の第2の[学級活動]の2「内容」に基づき、副題を「発達の段階に応じた当番活動・係活動の指導と自尊感情を高める指導の工夫を通して」と設定した。

ア 発達の段階とは

○ 発達の段階とは、学年や成長の段階が考えられるが、本研究では、小学校低学年・ 中学年・高学年、中学校(1年~3年)の4段階で示す。

イ 自尊感情とは

○ 自尊感情を、自分の否定的な面を受容するとともに前向きに取り組もうとする意識「これでよい(good enough)」(心理学者ローゼンバーグの考え方による)ととらえ、研究を進めていく。

尚、生徒の意識調査において、自尊感情という言葉は分かりづらいのではないかと 考え、「自分にはよいところがある」という書き方で示すこととする。

ウ 当番活動・係活動とは

- 当番活動は、日々の学級や学校の生活を維持するための活動で必要不可欠なもの。
- 係活動は、学級生活を楽しく豊かにするために、自主的に行う活動で、当番的なものや創意工夫のあるもの。

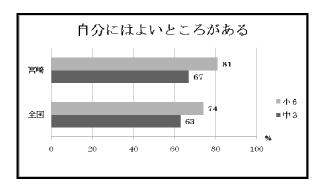
3 主題に迫る手立て

(1) 小学校と中学校の違いを組織づくりに生かす工夫

ア 発達の段階に応じた児童生徒の特徴

(7) 自尊感情の特徴

【図6】と【図7】はH22における「全国小中学校学力意識調査」と「みやざき小中学校学力意識調査」の結果の一部である。



【図6 H22 全国小中学校学力意識調査の結果から】

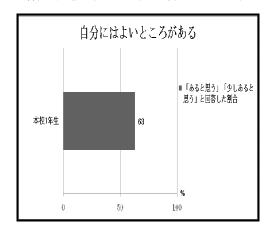
【図7 H22 みやざき小中学校学力意識調査の結果から】

設問は、「自分にはよいところがありますか」で4段階の評価(A~D)で肯定的な回答

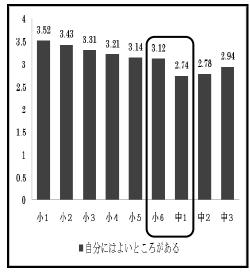
(A+B)をその割合とした。【図6】から、宮崎と、全国における小学校6年生と中学校3年生の比較では、いずれも中学校3年生の方に自尊感情が低い傾向があることが分かった。また、【図7】から、小学校5年生と中学校2年生の比較においても中学校2年生の方に自尊感情が低い結果が出ている。【図8】は本校の1年生を対象としたものであるが、数値的には【図6】と【図7】における小学生よりも低いことが分かった。「文部科学省生徒指導提要」によると、「自分の能力への関心は、小学校中学年から高まってくる。しかし、小学校3年生から中学生にかけて学年が上がるにつれて全体的な自己評価が低下する」とされている。

【図9】は、H20に東京都の小学校と中学校の 児童生徒を対象に実施されたもので、表示されて いる数値は4段階で設定したものを合計して人数 で割ったものである。これを見てみると、小学校 6年生から、中学校1年生にかけて、自尊感情の 落ち込みが大きいことが分かる。

そこで、本研究では、自尊感情を高めるためには、小学校6年生から中学校1年生にかけての接続の期間の工夫が最も重要ではないかと考えた。



【図8 本校1年生を対象とした結果から】



【図9 H20 東京都教職員研修センター資料から】

(イ) キャリア発達の特徴

キャリア発達の特徴を、本研究における主題と関連させて、【図 10】のように示した。

		望ましい人間関係	自分の役割に責任をもつ
小	低学年	あいさつや返事をする。友達と仲良く遊び、助け合う。	・ 家の手伝いや、割り当てられた仕事と役割 の必要性が分かる
学	中学年	自分のよいところを見付けると ともに、友達のよいところを認め 励まし合う。	・ 当番活動・係活動に積極的に関わり、働くことの楽しさが分かる。・ 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。
校	高学年	自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。	社会生活にはいろいろな役割があることや その大切さが分かる。仕事における役割の関連性に気付く。
中学校	Ė	自分のよさや個性が分かる。自己と他者の個性を尊重し、人間 関係を円滑に進めようとする。	集団の一員としての役割を理解し、それを 果たそうとする。

【図10発達の段階に応じたキャリア発達の特徴】

イ 発達の段階に応じた当番活動・係活動の違い

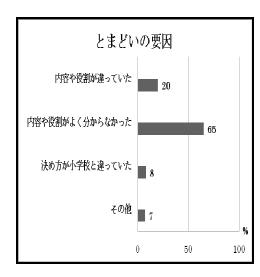
(7) 小学校と中学校の違いによるとまどいの要因

本校1年生(185名)を対象として、「当番活動・ 係活動に関する意識調査」を実施した。

中学校に入学して当番活動・係活動を決定する際、 とまどいを感じた生徒は全体の52%であった。

そのうち、主な理由として【図11】に示してあるように、「当番活動・係活動の内容や役割がよく分からなかった」、「当番活動・係活動の内容や役割が違っていたなどが挙げられる。

このことから、小学校と中学校の連携を通して、 当番活動・係活動における役割意識を児童生徒にも たせたり、認識させたりする指導が必要ではないか と考えた。



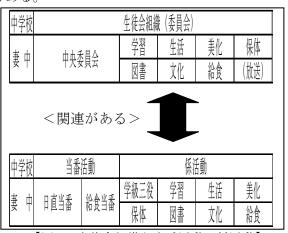
【図11 小学校と中学校の違いから】

(4) 当番活動・係活動の内容や役割の違いについて

【図12】は、西都市のA小・B小の高学年の例と児童会組織、【図13】は、本校の当番活動・ 係活動と生徒会組織の関連について示したものである。

小学校		児童会組織(委員会)									
A小 B小	ネットワーク ボランティア	計画 広報 運営 掲示	放送 図書	美化素	対培	生活	体育	保健	給食	集分	
くあまり関連がない>											
小学校		当番清	動				1	孫活動			
	教室整理	当番活 配達	舌動 黒板消し	健康観	察	なかよ	/ こし学紀		生き	物	
<u>小学校</u> A小	教室整理 時間割	配達						吸新聞	_		
		配達	黒板消し		•	みんな	し学	吸新聞 ュース	生き	きさん	

【図 12 児童会組織と当番活動・係活動】



【図13 生徒会組織と当番活動・係活動】

当番活動・係活動において、小学校の低学年と中学年では、学級独自のものをそれぞれ組織編成していくが、高学年になると、学級からそれぞれ数名ずつ児童会組織に所属させる。児童会組織は、学級の当番活動・係活動と関わることがあまりない。

一方、中学校においては、係活動は委員会という呼び名に変わり、生徒会組織が学級と相互 の関連をもちながら活動を行う。本校の場合、当番活動は日直当番と給食当番の二つである。

(ウ) 小学校と中学校における当番活動・係活動のプリントの作成

小学校と中学校の当番活動・係活動の違いをとらえさせるために作成したものである。小学校にある当番活動・係活動が、中学校ではどの係活動(委員会)にあたるのかを見付けさせたり、児童会組織と生徒会組織の違いに気付かせたりすることなどを目的とする。

次の当番活動と係活動は、小学校の高学年における当番活動と係活動です。 もし、妻中だったらどこが担当することになるか、下から記号で選んでみよう。 *小学校と*中学校の 当番、係活動 ① 時間割当番 … 明日の時間割を毎日掲示して帰る。 ② エコ当番 … 教室移動など、教室を使わないと電灯を消す。 ③ 配り当番 … プリント等を配布する。 ④ 黒板消し当番 … 休み時間などに黒板消しをする。 製金額の各のテルの影響に入っている最終的をもっ 適種の長の雑食のかけがおおれていないの機能と トイトのスリッパ強く、単の個を十る。 型外のに学体金貨で添ぶための新聞選択をする。 いいことをしている人を新聞の歌いてみ。 物館性で発展が原生など、クラスメートを整列させ 物質が高から生物のが終われる。 ⑤ ポスト当番 … 教室前の各クラスの用棚に入っている配布物をもってくる。 ⑥ 清掃チェック当番… 清掃の後の雑巾のかけ方が乱れていないか確認する。 … トイレのスリッパ並べ、棚の整理をする。 教室の花や生き物の食器をする。 誕生日のクラスメートを紹介したり、お祝いカードをブレ ピントしたりする。 ⑧ レクレーション係… 昼休みに学級全員で遊ぶための計画運営をする。 … いいことをしている人を新聞の記事にする。 ⑨ ニコニコ係 ⑩ リーダー係 … 移動教室や集会の際などにクラスメートを整列させる。 ⑪ 花・生き物係 一数室の花や生き物の世話をする。 ① バースディ係 … 誕生日のクラスメートを紹介したり、お祝いカードをプレ ゼントしたりする。 ア、学級三役 イ、日直当番 ウ、給食当番 エ、学習委員会 オ、生活委員会 カ、美化委員会 キ、保体委員会 ク、図書委員会 ケ、文化委員会 コ、給食委員会

ウ 発達の段階に応じた当番活動・係活動における指導のめやす

学習指導要領を基に、発達の段階に応じた係活動の「指導のめやす」を、次頁の【図 14】に示した。中学校においては、「係活動」という語句が学習指導要領に明記されていないため、「学級内組織づくりや仕事の分担処理」のところから記す。また、研究実践校区の小学校と中学校の教諭を対象とした意識調査から当番活動・係活動における児童生徒の実態及び指導例(当番活動・係活動の決定方法など)を記した。

「児童生徒の実態及び指導例」において、低学年では係活動よりも当番活動の方を重視しており、学級担任主導で仕事内容を決定している。中学年では、活発に動く係活動とそうでない係活動があり、名前カードなどを利用することにより、役割責任を高めようとする工夫が見られる。高学年においては、よく働いている係の児童を認めることで、自分たちから幅を広げて取り組んでいるということから、自分たちが役に立っているという自覚をもたせることが大切であると考える。中学校は、当番活動・係活動に対する必要性や、目的意識の低い生徒が少なくないため、学級の全員に自己の役割に対する責任をもたせる必要がある。

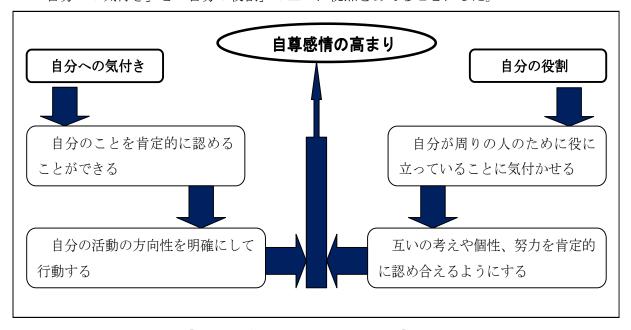
年等	车	発達の段階に応じた指導のめやす	年	児童生徒の実態	指導例
	低	 当番的な活動から少しずつ始め、少しずつ創意工夫できる係活動を見付けられるようにする。 		・ 活発に活動する児童が多い。・ 係活動はなく、当番活動だけである。	担任主導で決定する。学期ごとに交代する。
	学年	少人数で構成された係で仲良く助け合って活動し、 学級生活を楽しくできるようにする。	2	 係活動は、担任が声をかけないと、何もせずに過ぎてしまいがちになる。 	話合いで決定する。学期ごとに交代する。
小	中学	・ 様々な活動を整理統合して、児童の創意工夫が生かせるような係活動として、組織できるようにし、協力し合って楽しい学級生活がつくれるようにする。	3	・ 係活動の種類に取組の差が見られる。・ 名前カードを作成して、活動の様子を把握させている。	・ 必要な係を話し合わせる。・ 児童の希望で決定する。
学校	年	朝や帰りの時間などを生かして積極的に取り組めるようにする。	4	・ 当番活動は、毎日活動の場を与え、責任をもたせている。・ 名前カードを作成して、活動の様子を把握させている。	・ 当番活動は担任主導で決定する。・ 係活動は児童の希望で決定する。
	高学年	 自分のよさを積極的に生かせる係に所属し、継続的に活動できるようにする。 		・ 当番活動・保活動の区別をはっきりさせて取り組んでいる。・ 保活動の種類によって取組の差が見られる。	・ 当番活動は一人一役にする。・ 係活動は5名以内に編成する。
		高学年として、ふさわしい創意工夫のできるような 活動を重点化するなど、信頼し支え合って、楽しく豊かな学級や学校生活がつくれるようにする。	6	よく働いている係を認めることで、自分たちから幅を広げて取り組んでいる。児童会活動における委員会活動やボランティア活動などがあり、当番活動・係活動の充実が容易ではない。	・ 1学期は担任主導で決定する。・ 2学期以降は児童の希望で決定する。・ 名前カードを用いて個人の意志を明確にする。
į	中学校	 学級の成員すべてが互いの個性を尊重しながら、 何らかの役割を分担して協力し合うようにする。 学級の全員が自己の役割に対する責任と喜びを感じよりよい学級にするための様々な創意工夫ができるように配慮する。 	中学校	・ 当番活動・係活動の必要性を意識していない生徒が少なくないので、係活動を決定するときに、その係を選んだ理由や目的が明確でないことが多い。	・ 当番活動は輪番制で決定する。・ 係活動は生徒の希望で決定する。・ 学級三役は、立候補または推薦で決定する。

【図14 発達の段階に応じた指導のめやす】

(2) 自分のよさや互いのよさを認め合う組織づくりの工夫

ア 自尊感情を高めるための視点

本研究においては、自尊感情を高めるための工夫として、【図15】に示されているように、「自分への気付き」と「自分の役割」の二つに視点をあてることにした。

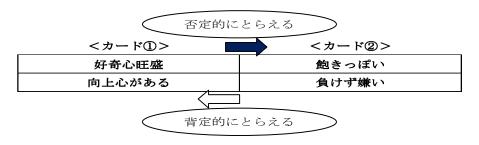


【図15 自尊感情を高めるための視点】

イ 自分のよさや互いのよさを認め合う活動の工夫

(ア) 「ポジティブ・リフレーミングカード」の作成

自分では短所と思っていたところが実は見方を変えることで、長所にもなるということを前向きな言葉で振り返らせるためのものである。例えば、「好奇心旺盛」は否定的にとらえると「飽きっぽい」ということになるが、「負けず嫌い」は肯定的にとらえると、「向上心がある」ととらえることができる。 自分の否定的な面を受容するとともに、肯定的な言葉に置き換えることにより、前向きに取り組む意識をもたせることを目的とする。ここでは、自尊感情を高める視点を「自分への気付き」とする。尚、活用の仕方等は、検証授業①における指導の流れ「展開①」で示すこととする。



また、4-6に示したように自尊感情の低下が小学校3年生ぐらいから始まる傾向があると されていることから、小学校の中学年と高学年における「ポジティブ・リフレーミングカード」 を作成した。

	<中学年>	見方を変えると
1	調子に乗る	雰囲気を明るくする名人
2	おとなしい	おだやかでひかえめ
3	いばる	自分に自信がある
4	しつこい	ねばり強い
5	なみだもろい	人のいたみが分かる
6	まわりを気にしてしまう	まわりに心くばりができる
7	手をだして	かかわりたい
8	きびしい	責任感がある
9	あまえんぼう	人にかわいがられる
10	ロべた	うそがつけない

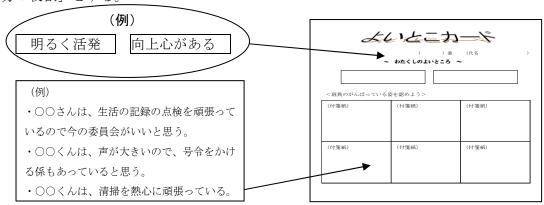
<高学年> [見方を変えると
1 うるさい	明るくて、元気で、活発
2 消極的	慎重に行動する
3 頑固	意志が強い、信念がある
4 ずうずうしい	どうどうとしている
5 気性が激しい	情熱的である
6 はっきりとことわれない	相手の立場を大事にする
7 あわてんぼう	すぐに行動できる
8 かたくるしい	まじめで、誠実
9 気がよわい	人を大切にできる
10 自慢する	自分の意見が言える

【中学年用】

【高学年用】

(イ) 「よいとこカード」の作成

お互いのよいところを認め合い、他者を肯定的に受け入れ、自分が頑張っていることや得意なこと、よさ等に気付かせることを目的とする。二つの長所の記入については、「ポジティブ・リフレーミングカード」を参考に書かせるようにする。ここでは、自尊感情を高める視点を、「自分の役割」とする。



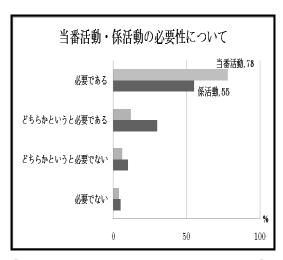
(3) 役割の大切さに気付かせる組織づくりの工夫

ア 役割の大切さに気付かせる工夫

(7) 生徒の実態から

【図16】は「当番活動・係活動の必要性」についての結果である。当番活動・係活動それぞれにおいて「必要である」と回答した割合は、当番活動が78%、係活動が55%であった。

この数値から、本研究でとらえる当番活動が 必要不可欠な活動であることや、係活動が学級 生活を楽しく豊かにするものであるなど、役割 の大切さに気付かせる必要があると考えた。

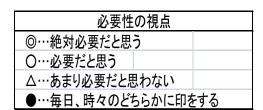


【図 16 当番活動・係活動の必要性について】

(イ) 「係活動役割カード」の作成

これは、活動内容の異なる係活動を三つ取り上げて、係活動における必要性に気付かせたり、役割意識を高めさせたりすることなどを目的とする。尚、カード内の①②③については、4-13の「ウ 指導の流れ」で詳しく記す。

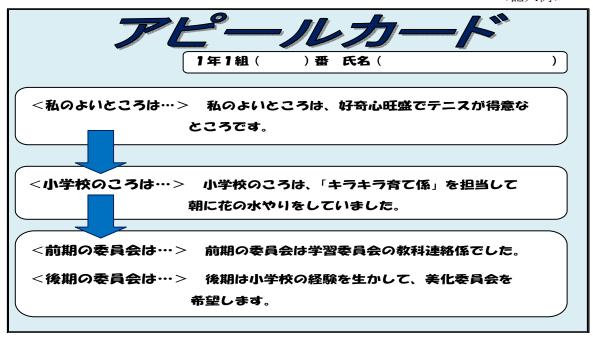
<◇班>					
係活動(委員会)	(1)	(2)	(3)	毎日	時々
学級三役					
学習(授業連絡)					
文化(掲示・新聞)					



イ 自分のよさや経験などを生かして役割を決定する工夫 ~ 「アピールカード」の作成~

これは、自分のよいところや、これまでに経験した当番活動・係活動を記入する項目をつくり、学級内の組織づくりで活用することを目的とする。

<記入例>



- 4 授業実践と研究内容による検証と考察
 - (1) 検証授業①の実際(妻中学校 第1学年1組 生徒35名 6月29日実施)
 - ア 題材名 「自分を知ろう」
 - イ 本時のねらい

お互いのよいところを認め、新たな自分を発見することができる。

ウ 指導の流れ

学習内容と活動

導

入

小中一貫教育のリーフレットの項目において「家の手伝い」と「整理整頓」に対する意識が低かったことを受け、アメリカの家庭では一般的に自分の身のまわりのことをする「整理整頓」なども「お手伝い」に含まれているということで、それぞれの関連性について考えさせた。

<家庭>

□ 家での手伝いに責任を もって取り組みます。



<小中一貫教育リーフレットの項目より>

<目標> お互いのよいところを認め、新たな自分を発見しよう。

「ポジティブ・リフレーミングカード」の活用

自分の短所を前向きな言葉で振り返ることにより、自分では短所と思っていたところを肯定的にとらえさせた。

研究内容2

自分の長所や短所とか今まで真剣に 考えたことがなかったなあ~

開 ①

展

- (1) カード②を配付し、自分の短所と思われる項目に△を記入させる。
- (2) カード①を配付し、自分の長所を班員から言ってもらい項目に○を記入させる。
- (3) カード②は、前向きに捉えることによって、カード① (同じ番号) に置き換えられることを確認する。

カード②									
番	印	項目							
1		さわがしい							
2		無理をしすぎる							
3		がんこ							
4	4	負けずきらい							
5		飽きっぽい							





番 印項 目1 さわがしい2 無理をしすぎる3 がんこ4 △ 負けずきらい	カード②									
2 無理をしすぎる 3 がんこ 4 △ 負けずきらい	番	印	項目							
3 がんこ 4 △ 負けずきらい	1									
4 △ 負けずきらい	2		無理をしすぎる							
	3		がんこ							
	4	Δ	負けずきらい							
5 飽きっぽい	5		飽きっぽい							

研究内容 2

「よいとこカード」の活用

お互いのよいところを認め合い、他者を肯定的に受け入れ、自分が頑張っていることや得意なこと、よさ等に気付かせた。

展

開 ②



班員の長所と向いている と思う係の仕事や種類など を内容が伝わるように記入 する。



自分の長所を上段の欄に「ポジティブ・リフレー ミングカード」を参考にし て記入する。



記入した付箋紙を班員と それぞれ交換して、自分の 「よいとこ」カードの枠に添 付する。

終

末

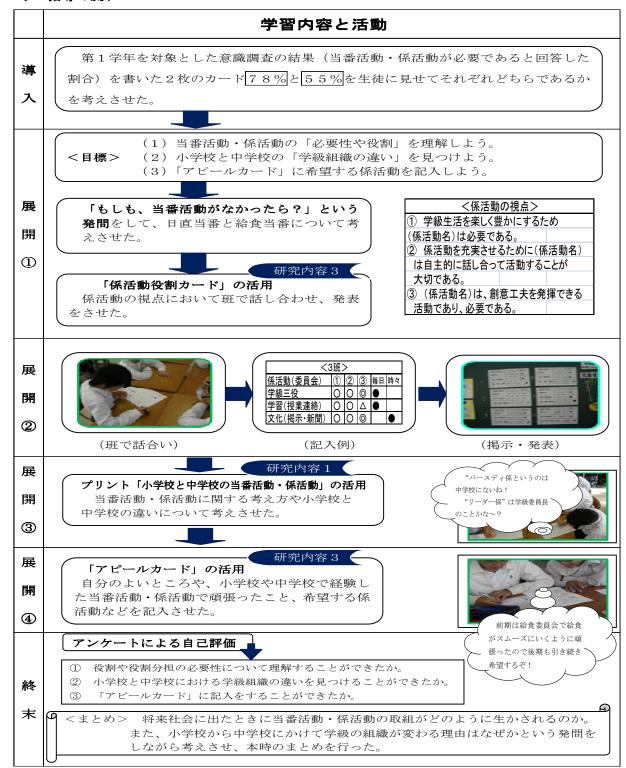
アンケートによる自己評価

- 自分のよいところを客観的に見ることができたか。
- ② 相手のよいところを認めることができたか。
 - ③ 新たな自分を発見することができたか。

(2) 検証授業②の実際(妻中学校 第1学年1組 生徒35名 10月29日実施)

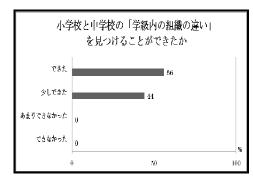
- ア 題材名 「学級内の組織と自分の役割」
- イ 本時のねらい
 - 当番活動・係活動の必要性や役割を理解することができる。
 - 小学校と中学校の学級組織の違いを理解することができる。
 - 自分のよいところや希望する係活動を学級に伝えることができる。

ウ 指導の流れ



(3) 研究内容 1 「小学校と中学校の違いを組織づくりに生かす工夫」

【図17】から小学校と中学校の「学級内の組織の違い」が理解できたことが分かる。これは、プリント「小学校と中学校の当番活動・係活動」を活用したことや、検証授業②のまとめにおいて当番活動・係活動を将来の社会生活と関連させ、児童会組織と生徒会組織について説明したことが有効だったのではないかと考えた。

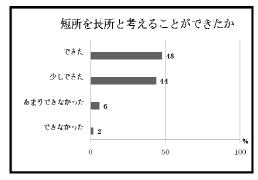


【図17 学級内の組織の違い】

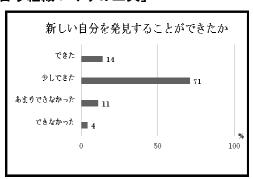
生徒の感想より

- O 小学校のときは、いろいろな係があったけど、中学校の委員会にその係は入るのだなと思いました。
- O 今まで考えたことがなかったけど、学級組織のことがよく分かった。
- O 中学校と小学校は似ているところもあるけど、違うところがあることが分かった。

(4) 研究内容2「自分のよさや互いのよさを認め合う組織づくりの工夫」



【図 18 短所を長所と考えること】



【図19新しい自分の発見】

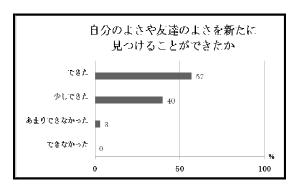
【図18】の示すとおり、9割の生徒が肯定的な回答をしていることから、短所を長所としてとらえ、新しい自分の見方ができたのではないかと考えられる。また、【図19】から、互いに認め合う活動を行い、まわりから肯定的な評価を得たことにより、新しい自分を発見することにつながったのではないかと考えた。

生徒の感想より

他のトカババところを見つけられ、 前より相手のことがよくられ、た気がします。 自らのいいところもらかり、 新しい自らが"発見できました!! 私にも良いところかいあったれだと思った。 班のみんなから良い所のカードをもらった時、 ラれしかったの 授業が楽しかったの



【図 20 「よいとこカード」と係活動分担表の学級掲示】



思うことができたか
できた
少しできた
少しできた
あまりできなかった
できなかった
0
0
50
100

家の手伝いや係活動を頑張ろうと

【図21 自分のよさや友達のよさ】

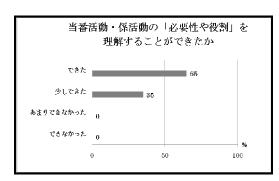
【図 22 家の手伝いや係活動の取組】

事後活動においては、【図20】のように「よいとこカード」を掲示したことで、【図21】からは、自分のよさや互いのよさをさらに認め合う場が広がったことが分かる。また、【図22】に示してあるように、「家の手伝いや係活動を頑張ろう」という意識が高まった。

よって、「ポジティブ・リフレーミングカード」と「よいとこカード」を活用したことにより、 自分の行動や考え方を肯定的に受け止めることにつながったのではないかと考えた。

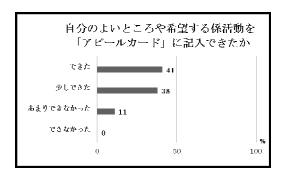
(5) 研究内容3「役割の大切さに気付かせる組織づくりの工夫」

【図23】から、当番活動・係活動の「必要性や役割」についてほぼ全員の生徒が理解できていることが分かる。これは、「係活動役割カード」を活用して、係の仕事の内容や大切さが理解できたからではないかと考えた。



【図 23 当番活動・係活動の「必要性や役割」】

【図24】から、アピールカードに自分のよいところや希望する係活動など、自信をもって記入できたのは全体の40%にとどまった。小学生のときの当番活動・係活動の名前等を思い出せなかったことや、希望する係活動を決めていなかったという意見が見られた。



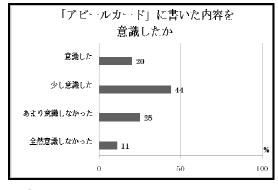
【図 24 「アピールカード」の記入について】



【図 25 「アピールカード」の学級掲示】

【図25】のように、事後活動においては班ごとに模造紙に貼り、「アピールカード」の掲示をすることにより、学級内の組織づくりに活用した。

【図26】から、学級内の組織づくりをする上で「アピールカード」の内容を意識した生徒は64%であったが、自分の希望を事前に知らせることにより、希望の係にスムーズに決まったという生徒もおり、有効に活用されたところも見られた。

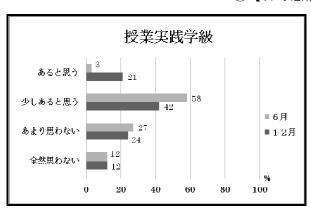


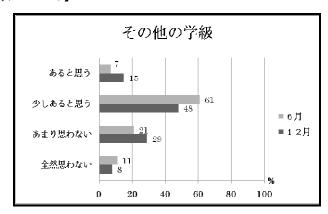
【図 26 係活動を決定する際の「アピールカード」への意識】

(6) 主題に迫る手立てを通した生徒の変容について

これまで述べてきた授業実践における生徒の学習の様子や、事前意識調査(6月)と事後意識調査(12月)をもとに、授業実践学級(35名)とその他の学級(150名の平均)を比較して生徒の変容をみることにした。

①【自尊感情について】

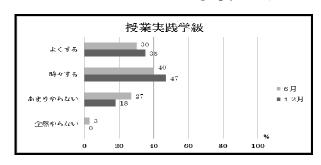


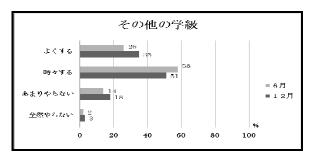


○ 授業実践学級では、自分にはよいところが「あると思う」と回答した生徒は、**3%から21% に増えており**、肯定的な回答も61%から63%と 2%ではあるが割合が伸びた。その他の学級では、「あると思う」と回答した生徒は 7%から15%に増えているが、「少しあると思う」と回答した生徒が、61%から48%に減少したため、肯定的な回答は、68%から63%に減少した。

これらのことから、授業実践学級と他の学級を比較してみると肯定的な回答をした割合が同じにはなったものの、自尊感情の意識は高まったのではないかと考えた。

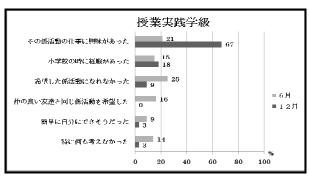
②【家の手伝いの取組意識について】

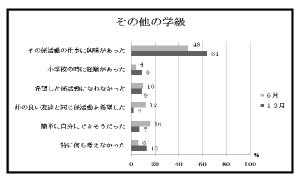




○ 授業実践学級では、**肯定的な回答の割合が増えている**、一方、その他の学級からは否定的な回答の割合が増えている。授業実践学級において、「家の手伝い」の取組意識に高まりが見られたのは、検証授業①の導入において、「家の手伝い」と「整理整頓」を関連づけて考えることができたことや、自尊感情の意識が高まったことなどが要因ではないかと考えた。

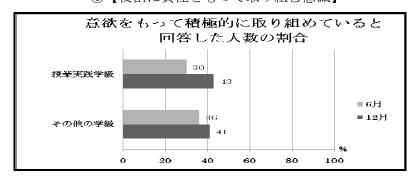
③【係活動を選択した理由】





○ 授業実践学級は、仕事に興味や関心をもって係を選択する割合が、21%から 67%と約3倍 になった。小学校の時に経験した係活動を選択した生徒もやや増えている。また、何も考え なかったり、友達と同じ係活動を選択したりする割合が減少した。一方、その他の学級は、 仕事に興味や関心をもって係を選択する割合は増加しているものの、何も考えなかったり、 友達と同じ係活動を選択したりする傾向が見られた。

④【役割に責任をもって取り組む意識】



○ 係活動において、「意欲をもって積極的に取り組めている」と回答した割合である。授業実践学級は、6月から12月にかけて**30%から43%で13%の増加が見られた。**一方、その他の学級は36%から41%で5%の増加であった。増加率と伸び率を比較してみると授業実践学級の方にやや高い傾向が見られた。

以上の事後意識調査から、自尊感情や家の手伝いに対する取組意識が高まったことが分かった。また、係活動の選択において、その係活動に興味をもって選択する生徒が約3倍に増えたことは、自分の役割に責任をもつことにつながったのではないかと考えられ、検証授業における主題に迫る手立てが有効であったと考える。また、「役割に責任をもって取り組む意識」において、「意欲をもって積極的に取り組めている」と回答した割合も伸びている。ただ、その他の学級と比較してみると、あまり差が見られなかったことから、継続的な指導の工夫や新たな手立てが必要ではないかと考えた。

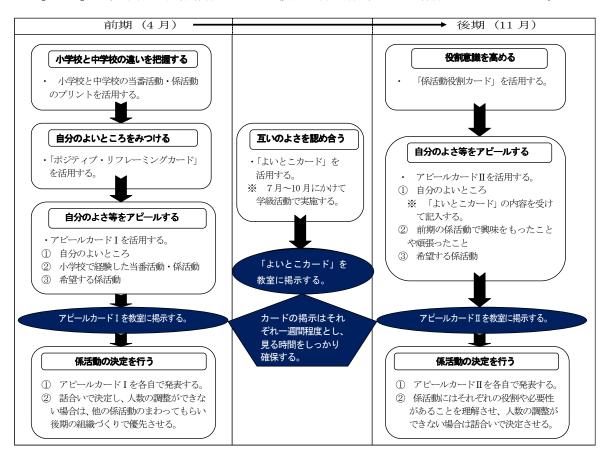
(7) 検証授業における一考察と新たな提案

本研究の主題に迫るための手立ては、学級内の組織づくりを充実させるためのものであった。 本校では、4月と11月に学級内の組織編成が行われるため、組織づくりに関する研究内容については、10月に取り上げた方がよいのではないかと考え、三つの研究内容を2回の検証授業で実施することになった。ただ、研究内容から見てみると、「小学校と中学校の当番活動と係活動のプリント」や「アピールカード」など、小学校での経験等を想起させる必要がある取組は、中学校に入学して間もないときに行った方がよいと考えた。

そこで、本研究では新たな試みとして、本校1年生における学級内の組織づくりの進め方と、 発達の段階に応じた当番活動・係活動の系統表を作成した。

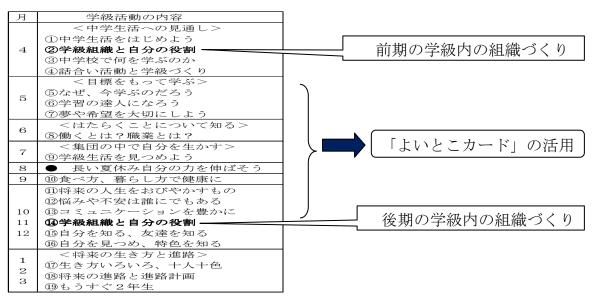
ア 本校1年生における学級内の組織づくりの進め方

【図 27】は、本校の組織編成の実態と検証授業の成果を基に作成したものである。



【図27 本校1年生における学級内の組織づくりの進め方】

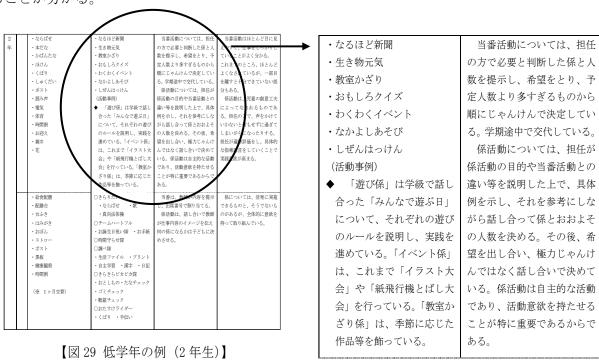
【図28】は、本校1年生における学級活動の計画である。これによると、【図27】を実施するには、「よいとこカード」を活用する際、「⑮自分を知る、友達を知る」「⑯自分を見つめ、特色を知る」などの内容を実施するなど、活動における年間指導計画の検討が必要であると考えた。



【図28 1年生の学級活動の計画】

イ 発達の段階に応じた当番活動・係活動の系統表

系統表を作成するにあたり、研究実践校区の小中学校の当番活動・係活動の内容や決定方法などを調査した。【図29】は、低学年(2年生)の例で、当番活動・係活動の内容、決定の方法が示してある。小学校における学級内の組織づくりは、基本的に3回、学期の始めに実施されていることが分かる。



【図30】は、【図29】のような調査結果と、キャリア発達の特徴や自尊感情の特徴、検証授業を 基に作成したものである。

			自尊感情	と高める視点	当番活動	係活動	決定方法など
		発達の段階の特徴を 踏まえた指導・援助	<自分への気付き> 自分のことを肯定的に 認めることができる。	<自分の役割> 自分が周りの人に役に立っ ていることに気付く。	日々の学級や学校の生 活を維持するための活動 で、必要不可欠なもの。	学級生活を楽しく豊かにする ために自主的に行う活動で、当番 的なものや創意工夫のあるもの。	小学校は基本的に学期ごと に実施。中学校は前期と後期 の年2回の実施。
	低学年	相手とのかかわりの 中で、自分の存在に気 付かせる指導。	考えたことを表現しながら活動を選んで取り組むことができる。	班活動で、互いのよさを認 め合うことができる。	児童の創意工夫の余地 の少ない当番的な活動を 中心に行わせる。	どのような仕事が学級 生活に必要かを発見させ、 係は少人数で構成させる。	担任主導で行い、必要に応 じて当番や係の数を調整しな がら決定する。
小学校	中学年	小集団や学級内で自 分ができることに気付 かせる指導。	得意なことを生かせる場を考え、選んで取り組むことができる。	学級活動などを通して、互 いの得意なことや好きなこと を認め合うことができる。	毎日活動の場を与える ことで役割に対する責任 をもたせる。	名前カード等を利用し 活動の様子を把握させる。 創意工夫のある係を考え させる。	自分のことを肯定的にとら えることができる活動や、互 いのよさを認め合う活動を取 り入れることにより、自分が
	高学年	集団の中で自分の役 割や存在感を感じさせ る指導。	今、自分に何ができるのかを考え、確実に取り組むことができる。	様々な活動で、互いの考え 方や行動のよさを肯定的に認 め合うことができる。	一人一役で責任をもた せ、役割の必要性を認識さ せる。	中学校との接続も視野 に入れながら児童会組織 との関連をもたせる。	周りの人に役に立っているということに気付かせ、話合いにより決定する。
ě	中学交	多様な考え方の受容と自分の個性を理解させるための指導。	行動目標を明確にして、 今後の自分の活動の方向性 を決めて行動することがで きる。	互いの考え方や個性、努力 を肯定的に認め合うことがで きる。		生徒会組織と相互の関 連していることに気付か せ、役割意識をもたせる。	中学校1年生における決定 方法は【図27】を参照のこと。

【図30発達の段階に応じた当番活動・係活動の系統表】

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 一貫教育を視野に入れ、役割の大切さに気付かせる組織づくりの工夫を行ったことにより、 学級内の組織づくりの決定において、意欲的に係活動に取り組もうとする生徒の姿が見られ るようになった。
- 自分のよさや互いのよさを認め合ったりする場を設けたことにより、自尊感情を高めることにつながり、自分の役割に責任をもつ生徒の割合が増加した。

2 課題

- 一貫教育を視野に入れた当番活動・係活動を展開していくためには、年間指導計画の整備 と実践・改善が必要である。まずは、発達の段階に応じた当番活動・係活動について、学級 内の組織づくりの視点から、小中学校で共通実践できることを見付けていきたい。
- 積極的な係活動の選択をする生徒の割合が増えたが、その後の取組意識をさらに高めるための有効な手立てや継続的な指導の工夫を考えていきたい。

≪参考文献≫

文部科学省 (2008. 8)「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社 文部科学省 (2008. 9)「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 ぎょうせい 文部科学省 (2010. 3)「生徒指導提要」 教育図書 特別活動研究 (2004. 10)「互いのよさを生かす係活動の展開」 明治図書 特別活動研究 (2005. 9)「係活動の再出発・必要な指導と手立て」 明治図書 特別活動研究 (2006. 6)「係活動の停滯克服の決め手」 明治図書

《研究実践校》 西都市立妻中学校